

学校支援地域本部事業をととした豊かな地域社会づくり

学校・家庭・地域の連携に基づく「全面教育」

兵庫県尼崎市大庄地区実行委員会

はじめに

大庄小学校は明治6年に、当時の大庄村の浄財で創立され、今年で創立138年が経過する地域住民自慢の学校です。親子3代・4代に渡って学んだ「我らの学校」であり、それゆえ、愛校心は強く、地域の人間関係が希薄になってきたと言われる今でも、本校には「いざ鎌倉」ならぬ「いざ大庄」という脈々とした学校愛・郷土愛が根づいています。

平成9年、1人の児童が犠牲になるという不幸な「神戸事件」が発生しました。また、平成13年には安全である学校内で多数の児童が殺傷されるという「大阪教育大附属池田小学校事件」が発生し学校神話が崩壊しました。その翌年、私は伝統ある大庄小学校第41代の校長として着任いたしました。その折に、今こそ「学校・家庭・地域の連携」が大切であると痛感し、学校経営のキーワードを「地域」と掲

げ、学校を開いて地域住民の信頼を勝ち取ることに傾注しました。そして、目指す学校像を①心のふれあいを大切に、笑顔と活気があふれる学校、②歴史と伝統を踏まえ、地域社会に根ざした信頼される学校、としました。折しもこの頃、幼い子どもが犠牲となる不幸な事件が後を絶ちませんでした。

これらの出来事を契機に、本校では、平成16年4月、地域住民や地域のあらゆる団体に呼びかけて、幅広くボランティアを募りました。その結果、180人からなる「子どもを見まもり隊」が発足しました。今では、「大庄小学校」と言えば「子どもを見まもり隊」、「子どもを見まもり隊」と言えば「大庄小学校」と言われるようになりました。多くのボランティアの方々日々、子どもたちの登下校を見守っていただき、おかげで校区の子どもたち

は、安心して安全に登校ができています。その様子は、文部科学省のホームページ「子ども見守りナビ」にも紹介されました。

「子どもを見まもり隊」を核とした「学校支援地域本部事業」

平成18・19年には、文部科学省ならびに兵庫県教育委員会の「道徳教育」研究指定を受け、学校・家庭・地域の連携を中核に据えた道徳教育に取り組み、全国発表をさせていただきました。

そのような流れの中で、翌年の4月、文部科学省の新施策として「学校支援地域本部事業」が実施されることになりました。この事業は、地域住民が学校の教育活動を支援するための体制整備であり、教育のさらなる充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向



児童の登校の見守り活動

上を目的とした「地域住民による学校応援団」制度です。

この制度の理念は、本校の目指す学校像と長年「子どもを見まもり隊」活動に取り組んできた本校の取組の実績とまったく一致するものでした。それゆえに、尼崎市教育委員会の推薦もあり、市内のモデル校として本事業に取り組むことになったのです。

本校の「学校支援地域本部事業」は「子どもを見まもり隊」活動が、その根幹となつて根づいているのです。

学校応援団活動事例

子どもを見まもり隊活動は、発足以来、各種団体の責任者からなる「推進会議」を定例で月1回開催しています。また平成20年4月からは、「地域教育



戦争体験を聞こう

協議会」も並行して開催し、学校や地域の行事、推進状況、推進していく上での問題点等を話し合い、協働態勢を整えています。

本事業の実際の取組は、大きく2つの部分に分けることができます。

1つは学校の教育活動の支援であり、ほかの1つは、学校環境整備です。それらの活動事例を簡条書きで紹介します。

登下校の見守り活動・教科学習指導・英語活動指導・生活科指導・総合学習指導・放課後学習指導・給食指導・読書活動指導・体育大会演技指導・クラブ活動指導・祭り太鼓指導・学校環境整備・学校行事・親子清掃・図書室整備・図書データ打ち込み・グラウンド整備・尼いも栽培指導・手作りおもちゃ指導・サッカー教室指導等々、たくさんの支援をいただいています。

取組の成果

「子どもを見まもり隊活動」を中核に据えた「学校支援地域本部事業」の取組の成果をあげてみたいと思います。

- ・子どもたちの安全が確保された。
- ・子どもが安心して学べる環境整備ができてきた。
- ・「安全・安心まちづくり」の意識が高まり犯罪抑止力につながった。
- ・学校や地域・PTAの活動が活性化してきた。
- ・地域やPTAの関心が学校に向けられるようになった。
- ・コミュニティが活性化してきた。
- ・大人にも子どもにも感謝の気持ち芽生えてきた。
- ・地域住民の「絆」が深まり、人とのつながりが強化されてきた。
- ・「地域の子どもは地域で育てる」という気運が高まってきた。
- ・すべての取組に対する教員・保護者・地域住民の誇り（自負心）が生まれてきた。
- ・ボランティア活動が生きがいとなり、多くの地域住民に「ほっとけない」という意識が定着してきた。
- ・ボランティア活動の様子が、マスコミ等に取り上げられることで、より一層世間の関心が「大庄地域」に向けられるようになってきた。

本事業に取り組んで

大庄小学校は、おかげさまで地域一体型の学校になってきました。先日にも体育大会を控えて、学校とPTAそして地域の方々が集まり、夕方5時から恒例のグラウンド整備を行いました。今年は猛暑にもかかわらず、100人以上のボランティアの方々に集まっていたことができました。その様子を見て、「本事業も着実に定着してきたなあ」と感激しました。

なぜこのように定着できたのか今振り返ってみました。その要因として大きかったと思われることをいくつか列挙してみたいと思います。

- ・学校は、基本的に地域の中核に位置しており、地域づくりのキーパーソンであること。
- ・各種団体が協働する際は、交渉相手となるキーパーソンが誰であるかが大事であること。
- ・そのキーパーソンは、地域内で人望の厚い人が適任者であること。
- ・ボランティア活動は無理なく、規制なく、善意に期待すること。
- ・何事もあせらずゆつくりと取り組むこと。
- ・出会うことで、人と人とのつながりが「絆」が生まれ、ネットワークが生まれること。
- ・考えるより動くこと（案ずるより生む

が易し）。

- ・出合いの回数が多いほど、信頼関係が深まること。
 - ・子育てには、多くの人のまなざしが必要であること。
 - ・継続することで本物になること。
- 等々が言えるのではないのでしょうか。

おわりに

「学校支援地域本部事業」とおして、「地域の宝物」として大事に育てられている「大庄っ子」の笑顔が確実に増えました。子どもたちは、大人の後ろ姿から命の大切さや生きることの大切さ、支え合うことの大切さを学習しています。かわっていただけ多くの皆さんの真摯な姿が、まさに「生きた教材」であり、「生きる力の学習の源」となっているのです。

地域の皆さんとの日々のお会いから多くのドラマが生まれ、大人も子どもも心の絆が一段と強くなりました。そして、「生きる力」という大きな財産が蓄積されてきました。

今後は、本事業をとおして培ってきた経験を基に、ますますパワーアップした「地域づくり、安全・安心まちづくり、学校づくり、そして、人づくり」を推し進めてまいりたいと思っています。昨今です。

（地域コーディネーター 元大庄小学校長 村尾典雄）